４月１８日（月）～２４日（日）

「Seventh Heaven」

　まさかの角膜潰瘍での救急受診から二日。今日は眼のチェックのため朝から眼科の外来を受診しました。

　外来はとにかく人が多い多い！！宮崎大学でも毎朝外来には多くの人が集まっていますが、その倍以上は並んでいたように思います。とりあえず待つこと約１時間。自分の番がやってきて診察開始。診察を終えて先生曰く、

「日曜日のときと状態が変わっていない。いやむしろ、ちょっと悪くなってるかも・・・。」

　なんだか悪い雲行き。とりあえず上の先生に相談するから待っていてといわれて、再び１５分の待機。で、上の先生登場。診察を終えて、

「入院したほうがいいと思う。」と一言。

説明してもらったところ、抗生剤が効いているかどうかは今の時点で判断はできないものの、１時間ごとの点眼もなかなか一人では夜間が厳しいし、また安静にしていたほうがいいということから入院を勧めるということでした。

　確かに一晩や二晩ならともかく、毎晩１時間ごとに起きて点眼するのは難しいし、痛みもあって左目がほとんど開いていない状態で、実習も厳しいかなと思っていたので、了承して入院。

　結論を先に言うと、入院生活は思ったより快適でした。案内された病院の部屋は個室、シャワー、トイレつき。エアコン完備。衛星放送テレビ、ポット、食器、ソファーなども備えられていました。また食事に加えておやつもあり、さらに部屋を出たところにはステージがあって、毎日夕方には学生やスタッフなどによるミニコンサートが開かれていました。ちなみに一般病棟は日本と同じように２～６人程度ごとに分かれている部屋もあれば、仕切りがなく１フロアに数十のベッドが並べてあるようなところもありました。エアコンは基本的についていないところが多いようです。

入院食（結構辛いものもあります）

入院中8割はベッドの上で過ごしました

　普段の生活は退屈と思いきや、意外に忙しかったです。というのも、１時間ごとの点眼×３や朝の診察に加えて、食事、おやつ、掃除×２/日、タオルや病院着の取り換え×2/日、バイタルチェック×２/日など部屋に入ってくる人の多いこと。また、ありがたいことに今回タイでお世話になっている先生や学生やスタッフのみならず、今まで宮崎で出会ったEMPの先生や学生がどこで聞いたのか、いっぱい見舞いに来てくれました。そのため、ゆっくりする時間はあまりなく、ベッドの上で過ごしているものの、座って話している時間が長く、あまり寝転んでいるということがなかったように思います。ちなみにタイでは個室入院の場合、夜の時間帯は付き添いがいないといけないというルールがあるので、緒方君が毎夜泊まり込んで、そのまま朝実習に向かっていました。

ちなみに病気や怪我で病院にかかるときは、まず旅行保険会社に現地から連絡を取ることをお勧めします。現地の病院情報、保険請求に必要な書類、どこまで保険がカバーできるか（病院までの移動費用、その際にかかった同伴者などのホテル代金等も保険で請求できる場合があります。）などを確認するようにしてください。病院にかかった時は旅行保険を使うか、カードに付帯されている保険を使うことになると思いますが、特にカード付帯の保険の場合はこういう健康に関わる事態のときにちゃんと保障されるのか、渡航前にちゃんと確認するようにしましょう。ただ、PSUに関して言えば、宮崎大学からの留学生の医療費は保険でカバーできない場合は大学側で保障してくれるそうです。とはいえ旅行中など、必ずしもPSUで治療を受けるとは限らないので保険は必須。あと、タイでは、私立病院は公立病院に比べて医療費が圧倒的に高いです。保険でカバーできるとしても、とりあえずは手出しになるので予算のない方は公立病院へ。

今回、幸か不幸かタイで入院生活を送ったのは、患者さんの気持ちや生活を実体験するとともに、タイの医療を患者目線で見ることができたという意味で、いい経験になったと思います。また、これはあとでPSUの学生から聞いた話ですが、自分の入院していた病棟の７階は部屋が前述の通り個室で非常に快適、かつ病棟の看護師さん達が綺麗らしく「Seventh Heaven」と呼ばれてるとか・・・。確かに美人ぞろいだったかも！！

とにかく楽しい入院生活を送らせてもらいました（笑）。でも、体調には気を付けて！海に入るときは可能ならコンタクトは外しましょう。また、もし目が充血して、痛みがあるようなことがあればすぐ病院へ！！他にも何かあったら無理をせず、病院にかかるようにしましょう。

文責：天満雄一